

# 歴史的景観キャラクタライゼーションと地域愛着の関係性に関する研究

愛媛大学 学生会員 ○渡邊友泰 愛媛大学 学生会員 香川恵  
愛媛大学 正会員 白柳洋俊 愛媛大学 正会員 羽鳥剛史

## 1. 背景と目的

持続可能な地域づくりを実現するためには、地域の存立を主体的に支える地域の担い手とともに、地域固有の文化を保全あるいは活用してゆくことが重要である。地域固有の文化を保全するために、我が国では伝統的建造物群保存地区などをはじめ、歴史的な建造物の保存が進められてきたが、田園や原野といった歴史的な景観もまた重要な歴史的資源の一つである。こうした歴史的な景観資源を定量的に評価する手法として歴史的な景観を「長い時間変化していない土地利用」と定義し、同の土地利用が変化していない期間（Time-depth）を算出することで当該地域の歴史的景観価値を定量化する「歴史的景観キャラクタライゼーション（HLC:Historic Landscape Characterisation）」が提案され<sup>1)</sup>、欧州をはじめとした各地で景観アセスメント指標として利用されつつある。ここで、持続的な地域づくりの実現には、地域住民自身が地域づくりに主体的に取り組むことが必要不可欠であり、そのためには地域に対する愛着を持つことが基本的に前提になると考えられる。引地ら<sup>2)</sup>は景観の評価が地域愛着に影響を与えることを指摘しており、歴史的景観もまた地域愛着と関連性を有する可能性がある。そこで本研究は歴史的景観と地域愛着の関係性を明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

### (1) 調査対象地区の概要

宇和島市旧津島町岩松地域及び・北灘地域の一部の45の地域を調査対象地域とした。同地域は、明治期に、地域内を流れる岩松川を利用した舟運が発達し、河口付近に多くの商家や蔵が軒を連ねる川湊として栄えた。2007（平成19）年に伝統的建造物群保存対策調査報告が実施されるなど、現在も歴史的建造物が多く残り、また地域住民により同建造物を活用した活動も実施されている。

### (2) 歴史的景観キャラクタライゼーション(HLC)の定量化

表1に示す現代の住宅地図と入手可能な公図、航空写真を用い、研究対象地域の各年代の土地利用の履歴調査から Time-depth を算出した。具体的には、2018（平成30）年のゼンリン電子地図を現代のベースマップとし、1966（昭和41）年、1874（明治7）年の地目が住宅、境内地、墓地、畑、水田、森林、草地、からなる土地利用図を作成し、各年代の土地利用の歴史的

特徴を特定するとともに、現在まで変化していない土地利用の期間を画地単位で把握するとともにし、式(1)に基づき各自治会の Time-depth を算出した。なお、土地利用を特定できない区画については不明として取り扱った。1966（昭和41）年の航空写真は、畑地、水田、草地の判別は困難であったものの、宅地、境内地、農地、森林の判別は可能であった。分析対象とした区画は合計3490筆、総面積は546.7haであった。

表1 使用した地図・資料一覧

年代	地図・資料
2018年(平成30年)	ゼンリン電子住宅地図デジタウン
1966年(昭和41年)	国土地理院航空写真
1874年(明治7年)	耕地図面(全6冊)
1874年(明治7年)	岩松町大字高田耕地(全9冊)
1874年(明治7年)	岩松町大字近家耕地(全9冊)
1874年(明治7年)	北灘浦之内北宇和郡耕地図(全17冊)

$$h_k = \frac{\sum(h_i \times s_i)}{\sum s_i} \quad (1)$$

ただし、 $h_{ki}$  : 土地  $i$  の Time-depth (年)

$s_{ki}$  : 土地  $i$  の面積 (m<sup>2</sup>)

$h_k$  : 自治会  $k$  の Time-depth (年)

(3) 地域愛着に関する調査書アンケート調査概要

上述の調査対象地域に居住する 1487 世帯に、表 2 に示す居住地区に対する愛着意識を測定する質問項目を記載したアンケートを配布した。具体的には、地域におけるまちづくり活動等、実際の行動に関わる諸指標とも関連することが示され、一定の妥当性が認められる鈴木・藤井<sup>3)</sup>の愛着尺度を基に、居住地区に対する愛着意識を「愛着（選考）」、「愛着（感情）」、「愛着（持続願望）」の 3 つの要素とした質問項目を設定し、同項目を 7 件法で回答することを要請した。ここで、「愛着（選好）」は「個人的な嗜好の観点から当該対象を肯定的に評価する程度」、「愛着（感情）」は「当該対象に対して“慣れ親しんだものに深くひかれ、離れ難く感じる”程度」、「愛着（持続願望）」は「当該対象のあり方に対して“願い”を抱く程度」を表している。なお、調査票のなかで、「お住まいの地区」とは「調査対象者の居住地の小・中学の校区程度の広さ」であることを明記した。有効回答者数は 338 名、回収率は 22.7%であった。

3. 結果・考察

図 1 に画地単位の Time-depth の算出結果を示す。川や海沿いの地区の Time-depth が低い。これは明治後期から昭和初期にかけて実施された河川整備及び干拓の影響である。つづいて得られたアンケート結果から、尺度の質問項目の内的整合性について検討したところ、表 2 に示すとおり十分な信頼性が認められた。表 3 及び図 2 に、アンケートの返送がなかったあるいは土地利用図が現存しない 6 つの地区を除く 39 の地区の地域愛着と Time-depth の示す。いずれの愛着尺度においても、Time-depth と弱い負の相関を示すことが認められた。これは、Time-depth が低い上本町二や若葉をはじめとした地区は部分的な宅地開発が実施されており、こうした土地利用の変化に応じて活発化した地域づくり活動により住民の地域愛着が高くなったと推察される。一方、Time-depth が高い上谷や遠近をはじめとした地区では、部分的に耕作の管理が行き届いていない農地が散見され、こうした固定化した土地利用に対する管理の負担から地域愛着が低くなったと考えられる。

4. 結論

本研究では歴史的景観キャラクタライゼーションと地域愛着の関係を検討した。その結果、歴史的景観キャラクタライゼーションと地域愛着は弱い負の相関が示された。

5. 参考文献

- 1) 宮脇勝：歴史的景観キャラクタライゼーションに関する研究，都市計画論文集，Vol.47，No.2，pp.206-213，2012.
- 2) 引地博之，青木俊明，大淵憲一：地域に対する愛着の形成機構 物理的環境と社会的環境の影響，土木学会論文集 D，Vol.65，No.2，pp.101-110，2009，
- 3) 鈴木春奈，藤井聡：「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究，土木学会論文集 D，Vol.64，No.2，pp.179-189，2008.

表 2 分析に使用した尺度の構成

地域愛着(選好)( $\alpha=0.82$ )	
1.	地域の雰囲気や土地柄が気に入っている
2.	地域が好きである
3.	地域にお気に入りの場所がある
地域愛着(感情)( $\alpha=0.88$ )	
4.	地域が大切である
5.	地域に愛着を感じている
6.	地域に自分の居場所がある
地域愛着(持続願望)( $\alpha=0.76$ )	
7.	地域にいつまでも変わってほしくないものがある
8.	地域になくなってしまうと悲しいものがある
9.	地域にいないときに寂しい思いを感じる
10.	地域にいるときに安心した気持ちになる

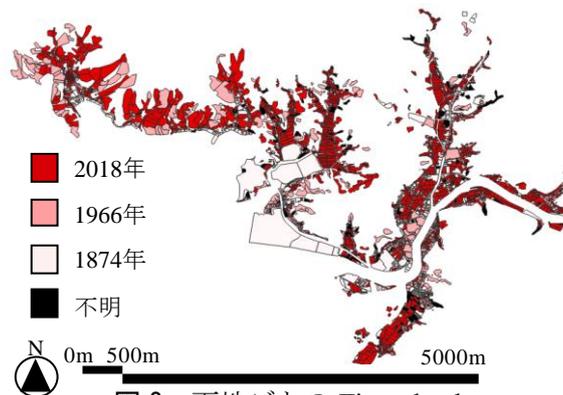


図 2 画地ごとの Time-depth

表 3 地域愛着と Time-depth の相関

	地域愛着(選好)	地域愛着(感情)	地域愛着(持続願望)
r	-0.34	-0.25	-0.30
p 値	0.03**	0.13	0.06*

\*:  $p < 0.1$ , \*\*:  $p < 0.05$ ,

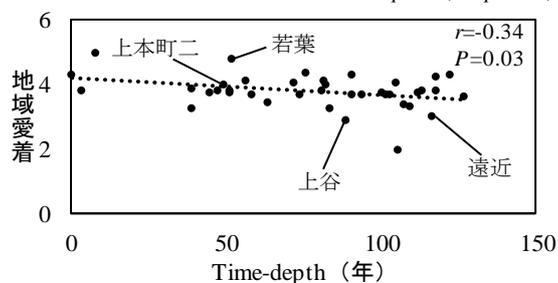


図 1 地区ごとの Time-depth と地域愛着の関係

こうした固定化した土地利用に対する管理の